

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第5号 畜産

発行日 平成25年 7月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

◆ 飼料作物

【牧草】

草地更新 秋播種にむけて、播種床を準備する時期です。耕起、碎土、整地作業は丁寧に行い、膨軟な播種床を作成します。

二番草収穫後のスジキリヨトウの食害に注意します。

【飼料用トウモロコシ】

電気柵を設置し、クマのトウモロコシの食害を防ぎましょう。

◆ 牛舎管理

牛舎環境の改善や、飼料摂取量確保のための工夫により、暑熱の影響の緩和に努めます。

1 草地管理

(1) 除草剤の播種日同日処理における播種床の作成

ア 永年草牧草は、8月中旬から9月中旬を目安に播種しますが、播種の約30日前(7月中旬から8月上旬)に播種床を予め形成し、雑草を十分に生育させます。

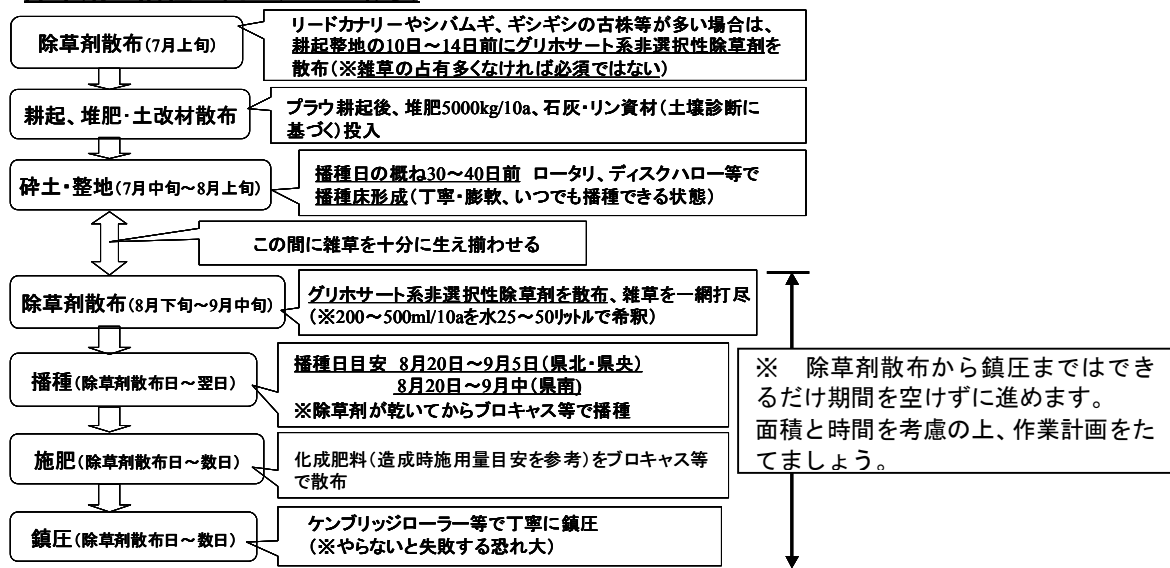
イ 前植生処理が未実施の場合は、速やかに非選択性除草剤を散布するか刈払を行います。

ウ 耕起作業では、ルートマットが確実に土壌と混和するよう十分な深さを確保します。耕起作業の良否が次ぎの碎土・整地作業の精度に影響します。

エ 堆肥は、10アールあたり5tを目安に散布します。炭カルなど土壌改良資材を必要量施用します。

オ 碎土・整地作業は、ルートマットが確実に土壌と混和するよう、また施用した堆肥や土壌改良資材が十分に土壌と混和するよう丁寧に行います。十分に碎土された膨軟な播種床は、牧草の発芽と定着を高めます。

除草剤の播種日同日処理の概要



(2) スジキリヨトウによる牧草の食害に注意

平成22年度の2番草収穫後、スジキリヨトウによる食害が滝沢村と県南部で多発しました。今の

ところ注意報は出ていませんが、スジキリヨトウは老齢幼虫で越冬し、夏期高温年に大発生するので、本年度も注意して下さい。

食害により、草地在り一部枯れたようになり、裸地が拡大して行きます。幼虫が大きくなると薬剤が効かないので、早期発見と薬剤防除が必要です。



スジキリヨトウ(幼虫)



スジキリヨトウ(成虫)



食害を受けた草地。イネ科植物を好んで食害し、シロクローバ、ギンギンが残る。夜間に活動が活発になるなどの特徴。

スジキリヨトウ

老齢幼虫で越冬し、夏期高温年に大発生する。大発生した場合、草地在り枯れたようになる。

幼虫の第1世代は6月下旬から7月上旬、第2世代は8月下旬から9月上旬に発生密度が高くなり、被害が大きいのは第2世代である。本県では年2世代の発生であるが、夏期高温年は3回目の成虫が発生することもある。

幼虫は約25mm以下の大きさ。幼虫の期間は26-30日間。最初は黄緑色であるが、大きくなるに従って褐色を帯び、中央と背面両側に茶色の縦縞ができる。

草丈の長い所に、白い卵塊が産み付けられる。ふ化までは、第1世代で9-12日間、第2,3世代で6-7日間。

2 クマによる飼料用トウモロコシの食害回避

(1) 電気柵の設置

電気柵は、電気ショックを経験させて、動物の心理的バリアーを構築することにより圃場への侵入を防ぎます。物理的な柵ではないため、必ず侵入前（クマがトウモロコシの味をおぼえる）前に設置し、電気ショックを経験させます。

ア 設置時期

クマはトウモロコシの子実を好んで、圃場内へ侵入します。トウモロコシの出穂前（7月下旬～8月上旬）には設置を完了します。

イ 漏電の防止

アースを確実に設置します。電気柵は草などに触れて漏電すると効果が劣り、侵入の一番の原因となります。こまめに草刈りを行うか、電牧設置場所の周囲に除草剤散布を行いましょう。また、設置後も定期的なチェックを行い、漏電による電圧低下を防止しましょう。

ウ 設置方法

3段張りが一般的です。クマは地面を掘って侵入する機会が多いため、1番下の電気柵は地面から20cmの位置に設置します。また、圃場のくぼみの部分はポールを増設します。より効果を高める方法として、電気柵の外側にもう1つの電気柵（トリップ柵）を設置する方法があります。トリップ柵はメイン電気柵の外側30～50cm、地面から20～30cmの高さに1本設置します。（写真参照）

(2) 設置費用

ア 外周600mの場合（2ha前後）

[電牧器（バッテリー収納型）・グラファイポール・ポリワイヤー3段、クリップ]で10万円前後

イ 外周300mの場合（1ha未満）

[電牧器（電池型）・グラファイポール・ポリワイヤー3段、クリップ]で6万円前後
支柱等、自己調達可能な資材を使用することで設置コストはさらに低減可能です。

電気柵設置に係る詳細と相談は最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせください。



トウモロコシ圃場の電気柵（トリップ柵）

3 暑熱の影響の緩和

牛舎環境や飼料給与方法について、再度点検しましょう。

(1) 暑熱環境の改善

下記方法を活用し、牛舎内温度や牛の体感温度の低下に努めましょう。

- ・牛体や牛舎内へ降り注ぐ直射日光の遮断（寒冷紗等の利用）
- ・日光による輻射熱を避けるため、屋根への石灰塗布や屋根への散水
- ・換気・送風量の確保（十分な風量を確保できる換気扇台数を準備しましょう）

(2) 粗飼料の摂取量低下防止

粗飼料の摂取量が低下すると、様々な障害が発生します。下記について留意しましょう。

- ・水槽の掃除をこまめに行い、いつも新鮮な水を十分に飲めるようにしましょう。
- ・品質の良い嗜好性の良好な粗飼料の給与に努める。
- ・嗜好性が劣る粗飼料は少量ずつ給与したり、少量の配合飼料をふりかけたりして、採食意欲を高めます。
- ・外気温が比較的低い、夜間から早朝にかけての飼料給与量の増加や、就寝前のエサ押しも有効です。

(3) 粗飼料の摂取量や乳量・乳成分が低下し始めた場合の対応

粗飼料の摂取量が低下した場合には、下記のような対応を行いましょう。

- ・反芻回数、だ液分泌量減少により、ルーメン pH が低下してアシドーシスが懸念されます。配合飼料の給与回数を増やす、重曹（100～200g/日・頭）の給与などを行います。
- ・エネルギー補給のため、綿実や糖蜜などの糖分の給与も有効です。綿実の場合、ルーメン微生物の活性と乳脂肪分率の維持を考慮し、給与量は1頭あたり1日2kgが上限です。
- ・発汗の増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10から20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹やリン酸カルシウムを補給します。

次号は8月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。